第 15 回 日本薬局学会学術総会

プレアボイド報告データの医療安全対策への活用を目的とした入力項目の検討

西村佳子
総合メディカル（株）薬局事業本部 学術情報部

【目的】近年、保険薬局におけるプレアボイド報告は広く実施されており、当薬局でも 2019 年より薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業（以下、ヒヤリ・ハット事業）の書式に基づき報告収集を行っており、そのデータを現場共有して医療安全に繋がる情報収集・評価の質向上への活用を推進している。ヒヤリ・ハット事業では患者情報や薬剤師の判断根拠はフリー入力で記す形式だが、これらを分析するには多くの時間を要する。そこで、医療安全対策に有用な情報を収集するために独自に設定した入力項目について有用性を検討したので報告する。

【方法】2020 年 4 月から 2021 年 3 月まで、疑義照会・処方提案により処方が変更された 30,729 件の報告において、かかりつけ薬剤師などの担当状況や発見場面の詳細、処方変更後の患者転帰、薬学的問題に影響する要因などについて設定した項目の件数を評価した。

【結果】報告された事例のうち、かかりつけ患者は 3,806 件、在宅担当患者は 390 件であり、26533 件（86%）が担当していない患者事例であった。発見場面は電話等フォローアップ時 327 件、在宅訪問 181 件であり、29884 件（97%）は交付時の対応事例であった。処方変更後の患者転帰については、確実に把握できなかった事例が 1822 件（6%）あることが分かった。また、腎機能障害 415 件、肝機能障害 27 件、妊婦・授乳婦 94 件、吸入手技等の問題 150 件など、薬学的問題の把握のために評価された情報を併せて抽出することができた。

【考察】今回の結果より、医療安全対策のためにプレアボイド報告を活用する場合、どの様な環境下で何を評価する事で問題把握できるのか、それぞれ項目化することで簡易に情報収集できることが示唆された。また、処方変更後の患者転帰をフォローアップしていない事例が見られたことから、薬剤師が安全性担保に貢献できた事を明らかにするためには経過まで情報収集することが必要であると考察した。

Copyright Sogo Medical Co.Ltd All Rights Reserved.